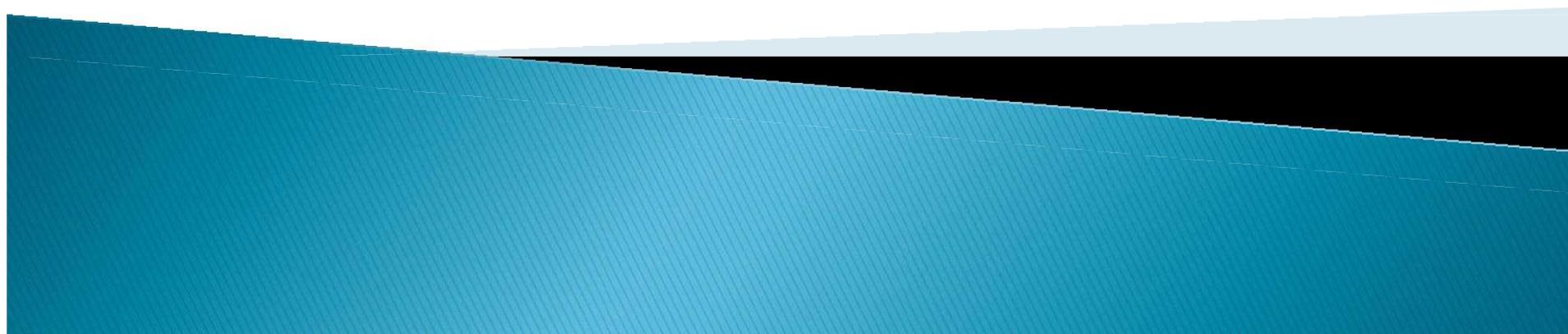


松井君の箱根駅伝

関東学生連合の一員として



松井君の朝日新聞記事_走行前

11月28日 土曜日 専頁 日 薬行 長京 (夕平)



東大の近藤（前列右端）、東工大の松井（後列右から4人目）ら関東学生連合チームの16人

文武両道ランナー箱根へ

来年1月の箱根駅伝に出る関東学生連合チームに、文武両道を貫くランナーがいる。東大1年の近藤秀一と東工大4年の松井将壽。箱根駅伝を目指すのは強豪校の選手ばかりではない。東大の近藤は、公立進学校静岡・韭山高出身。高校総体や全国高校駅伝に出られなかったが、5000メートルで全国レベルの証し、14分30秒を突破。東大を目指して浪人中も予備校に通わず、1日2回の練習を継続して受験前の秋の記録会で更に自己記録を縮めた。「勉強だけやっても入学できたか分からない。陸上があったことでバランスのとれた生活が送れた」。

関東学生連合 東大・近藤、東工大・松井

「競技と勉強 中途半端は嫌」

東大理科二類に合格した1年目から目標だった学生連合入りを果たした。東工大の松井は前回、学生連合で9区を任せられ、同大初の出場選手となった。出身高は、5000メートル本記録の大迫傑（ナイキ・オレゴン・プロジェクト）らが輩出する強豪、長野・佐久長聖高。全国大会4位の実績を引っさげ愛知から陸上留学したが、高2の時、疲労骨折を機に退部した。「競技と勉強と、中途半端になるのが嫌だった」。猛勉強して東工大に現役合格し、大学で再び走り始める。生活や練習を自分で管理するのが合っていた。台風を

研究するため、大学院に進み、競技も続ける。関東学生連合は、落選した大学から、予選会のタイムで各校1人ずつ16選手が選ばれた。順位のつかないオープン参加で出場する。（増田聖至）

排除に疑問

ロシアの陸上競技選手がドーピング問題で、世界反ドーピング機関（WADA）が「不適格」だと認定した。このことを受けて、陸上選手は、イロ五輪の出場する事柄になって、もちろんドーピングに禁止されるスポーツの公平性



や尿のデータを継続的に探ると主張した。

遊行寺坂下



東工大応援団__1



東工大応援団__2



東工大応援団__3



東工大応援団__4



東工大応援団__5



トップ青学大



追う東洋大



山梨学院大とのデッドヒート



最終ランナー 上武大



松井君の記録_8区

松井君 個人の記録

第8区	平塚	—	山梨学大)	
チーム名	選手名		区間記録	
青学大	下田 裕太		1:04:21	
東洋大	山本 修二		1:06:32	
駒大	馬場 翔大		1:05:22	
中央学大	細谷 恭平		1:05:29	
日体大	吉田 亮老		1:05:38	
早大	柳 利幸		1:05:29	
明大	吉田 楓		1:06:22	
学生連合	松井 将器		1:06:12	(
東海大	林 竜之介		1:05:48	
大東大	立花 克広		1:06:15	
順大	甲斐 智樹		1:06:56	
山梨学大	谷原 先嘉		1:06:44	
山中	苗村 隆広		1:07:42	
帝京大	山崎 涉		1:06:40	
日大	岡野 佑輝		1:08:41	
神奈川大	渡辺 慎也		1:06:55	
城西大	松村 陣之助		1:07:36	
拓法大	白石 海斗		1:07:06	
上武大	土井 大輔		1:07:57	
東国大	上田 隼平		1:07:08	
	鈴木 大貴		1:10:23	

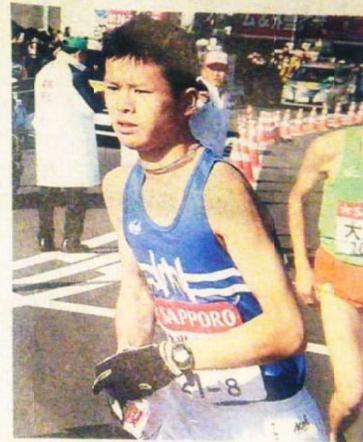
区間7位に
相当する記録

松井 君の記事_読売新聞

H28-1-9 朝刊から

関東学生連合 8区

まさき
松井将器 東京工大 4年



関東学生連合の8区で成長の跡を見せた東京工大の松井

一度は断念した道 達成感

手が間に合わず繰り上げスタートになり、自身もタスキをつなげなかった。今季は工学部機械宇宙学科で台風の渦について研究する多忙な中、実業団の練習にも参加。その結果、8区で区間7位相当と好走し、タスキも手渡し「前回と達成感が違った」と感慨に浸った。

春から大学院に進み競技を続ける。3月のびわ湖毎日マラソンには3年連続で挑戦。異色の理系ランナーは「2時間10分を切りたい」と、高い目標を掲げた。
(田中誠之)

「競技をやってきて、本当に良かった」。オープン参加の関東学生連合で2年連続出場を果たし、晴れやかな表情を見せた。
長野・佐久長聖高2年の

時、座骨を疲労骨折して陸上を断念した。その後は勉強に集中して東京工大に合格。競技への思いが再燃し、陸上部に入った。前回は9区で区間17位相当。前の選

神奈川県支部-佐藤三祿さまから蔵前同期の宮本様にあてて、1月3日の松井選手激走を応援（スライドPhotoは、そのとき撮影されたものです）の様子をご報告下さったものです。佐藤様にご了解いただき、午餐会での宮本様報告スライドに追加掲載させていただきます。

平成 28 年箱根駅伝応援記

（注：宮本と同期の佐藤三祿氏が、同期のメンバーに送ったもの。）

箱根駅伝観戦レポート。

第92回箱根駅伝復路第8区（平塚～戸塚）のレースの応援に行ってきた。陸上競技部のホームページで応援場所は辻堂駅付近、藤沢小学校付近、遊行寺の坂、藤沢バイパス合流点付近、戸塚中継所に近い原宿交差点付近と指示されていました。

私は復路の最難関8区藤沢遊行寺の坂で応援することにして、通過時刻の1時間半前に現地到着、各チームは準備作業を始めたところでした。テレビラジオの中継スタンド付近を見物していたら、報道記者のインタビューを受けました。「箱根駅伝のファンですか？」、「毎年見に来るのですか？」、「どうしてここに来ることになったのですか？」という質問です。「応援には今年初めて来ました。東工大の後輩がこの区に出走するのでその応援です。東工大の学生が箱根駅伝に出るのはこれまでには無く、昨年が初めてで、今年は2回目なので、何としても応援しなければと思って朝早くに家を出て来ました」と答えました。

やがて東工大応援隊も到着、コバルトブルーの応援旗が10本ほど立ち並びました。陸上競技部の学生と陸上部のOBが主で20～30人くらいでしょうか。ラジオではエントリーメンバーの変更が次々と出ている様で心配でしたが、放送で平塚中継点で松井君にたすきが繋がったと聞いて、さあ来るぞと気合を入れ直しました。

先頭の青山学院大が近づくと声援はピークに、小柄な選手が舞うように遊行寺の坂を上って行きます。2番目が来るまでかなりの時間があり緊張の静けさが漂います。2番の東洋大の選手は先走の青学大が見えない長い坂道を攀じ登るように走って行きます。駒沢大、早稲田大とかなりの時間差で通過して行きます。その時間差もだんだん短くなり次々に選手が坂を上ってきます。復路のスタートは半分くらいのチームが繰り上げ一斉スタートになっていますから、順位は分かりません。選手たちは目の前の相手に食い付く様にして坂と戦っています。松井君が現れたのはそんな混戦状況の時でした。悲鳴のような歓声が聞こえるのでふと見ると、松井君が山梨学院の選手と短距離レースの様なデッドヒートを演じながらあっという間に坂の上に走って行きました。正に激走、実に感動的なシーンであります。後半の選手も次々と坂を上がって行き、しんがりには上武大の選手が東工大の幟の前を走り抜けていきました。一段と大きな声援が飛んで30分に満たない大活劇は幕を閉じました。選手たちが忽然と現れては坂の上にきえて行く、その瞬間だけに現存する幻の様な、芸術性を感じさせる時間でありました。

8区の区間タイムを添付します。松井君の実力が発揮された跡が記録に残っています。しかしこの場面も決して簡単に実現したのでないことが、予選会の記録を見るとよく分かります。予選会は各チーム10名以上14名以下のエントリー、当日は10名以上12名以下の出場が条件で、上位10名の合計タイムでチーム順位が決まります。その上位10校が本戦に出場できます。関東学生連合チームは、それ以外のチームの記録上位者から選ばれます。(49-10=39)校400名余の選手から選ばれるのですから、並大抵のことではないことです。そのバックにはチームの力もあってのことと思うと、後輩諸君は大変な力を発揮してくれたと言えます。

8区のレースが終わって、応援の部員諸君に祝意と感謝の言葉を述べて藤沢駅に戻りました。

駅前の蕎麦屋で600円の蕎麦ランチと380円の生ビールと380円の焼酎お湯割りで祝杯をあげ、本当に良い正月を迎えることが出来ました。

なお1月2日にも箱根駅伝の応援に出掛け、箱根小涌園から少し下った強羅方向T字路脇で寒風の中2時間待って、第3代山の神 神野大地君の山登りを拝んできました。

オールドボーイズもまだまだ頑張らなくては！

佐藤三禄